

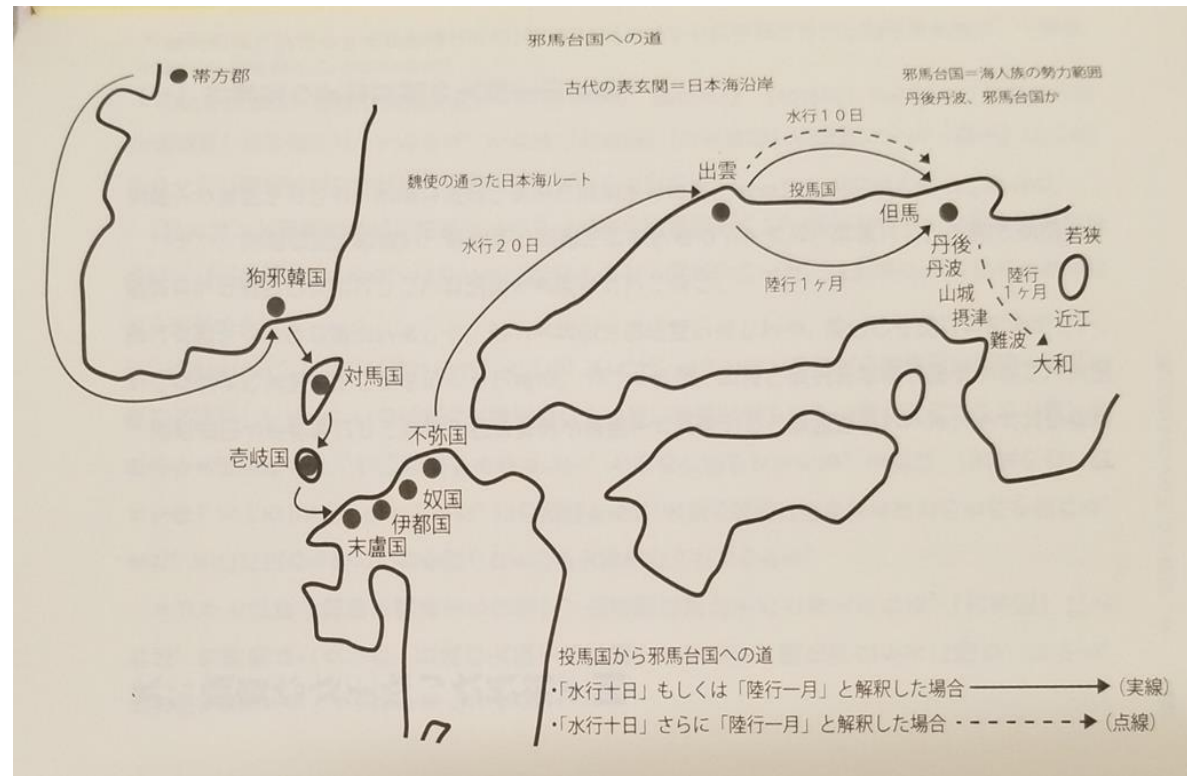
(表1)

	比定地	戸数	役名	特徴
帯方郡	韓国 ソウル付近			
狗邪韓国	韓国 金海付近			
対馬国	長崎県対馬	千余戸	大官 卑狗 副 卑奴母離	絶遠の島、四方四百余里。山が険しい。深林が多い。道路は鳥や鹿の径のよう。良い田はない。海産物を食べて自活。船に乗って南北にいき、米を買う。
一大国	長崎県老岐	三千ばかりの家	官 卑狗 副 卑奴母離	四方三百里ばかり。竹木・叢林が多い。やや田地あり。南北に行き米を買う。
末盧国	佐賀県東松浦郡～唐津市	四千余戸		山海にそうて居住する。草木茂る。魚、アワビを捕える。もぐってとる。
伊都国	福岡県糸島郡二丈町～前原市	千余戸	官 爾支（にき） 副 泄謨觚、 柄渠觚	王がいるが女王国に統属す。郡使が往来し、常駐の場所。
奴国	福岡県博多付近 須玖岡本遺跡あたり	二万余戸	官 兕馬觚 副 卑奴母離	
不弥国	福岡県糟屋郡宇美町か。各説あり。	千余家	官 多模 副 卑奴母離	
投馬国	各論あり。 出雲～但馬か。 出雲、但馬。ほかに、鞆、玉名、妻、都万、三瀬、薩摩等各説。	五万余戸	官 弥々 副 弥々那利	
邪馬台国	大和説、九州説 四国説ほか各論あり。 筆者は、海人族の勢力範囲、丹後、丹波説（タニハ説）（大丹波王国説）	七万余戸	官 伊支馬 次を 弥馬升 次を 弥馬獲支 次を 奴佳靱	女王の都するところ。

(表2)

出発する国名	方角	到着した国名	里数	
帯方郡 (韓国ソウル付近)	あるいは南し、あるいは東し	狗邪韓国	7000余里	
狗邪韓国 (韓国 金海付近)	はじめて一海をわたる	対馬国	1000余里	
対馬国(長崎県対馬)	南へ一海をわたる	一大国	1000余里	
一大国(長崎県壱岐)	また一海を渡り	末盧国	1000余里	
末盧国(佐賀県東松浦郡~唐津市)	東南に陸行	伊都国	500里	
伊都国(福岡県糸島郡二丈町~前原市)	東南	奴国	100里	
奴国(福岡県博多付近)	東行して	不弥国	100里	
不弥国(福岡県糟屋郡宇美町か)	南	投馬国	水行20日	
投馬国(出雲~但馬か)	南	邪馬台国	水行10日 陸行1月	
邪馬台国(丹後、丹波説(タニハ説)(大丹波王国説))				

▼邪馬台国への道筋の地図(表3)



(資料 4)

『魏志』倭人伝に書かれた卑弥呼

- ①もと男子をもって王となし、住まること七、八十年。倭国は乱れ、相攻伐して年を歴る。乃ち、共に一女子を 立てて王となす。名づけて卑弥呼という。
- ②鬼道につかえ、よく衆を惑わす。
- ③年はすでに長大であるが夫婦なく、男弟があつて、佐けて国を治めている。

④王となってから見たものは少なく、婢千人をみずから（自身）に侍らせている。

④ ただ男子が一人あって飲食を給し、辞を伝え居処に出入りしている。

⑥宮室、樓観、城柵を厳かに設け、常に人があって兵を持って守衛している。

⑦その年十二月、詔書で倭の女王に報じていうには、『親魏倭王卑弥呼に制詔する。帯方郡の太守劉夏は、使いを遣わし、汝の大夫難升米、次使都市牛利をおくり、あなたが献じた男生口四人、女生口六人、班布二匹二丈を奉じて到らしめた。今あなたが親魏倭王となし、金印紫綬（くみひも）を与える。装封して帯方の太守に付し、仮授させる。

⑧いま、絳地（あつぎぬ）、交竜錦（二頭の竜を配した錦の織物）五匹、絳地の縹栗罽（すうぞくけい）（ちぢみ毛織物）十張、倩絳（あかね色のつむぎ）五十匹、紺青（紺青色の織物）五十匹でもって、あなたが献ずるところの貢ぎものの値に答える。

⑨又、特にあなたに、紺地句文錦（紺色の地に句ぎりもようのついた錦の織物）三匹、細班華罽（さいはんかけい）（もようを細かくまだらにした毛織物）五張、白絹（もようのない白い絹織物）五十匹、金八両、五尺刀二口、銅鏡百枚、真珠、鉛丹おのおの五十斤を賜う。

⑩みな装封して難升米・牛利にわたす。還り到着したら受け取り、あなたの国中の人に示し、国家（魏）があなたをいとしく思っていることを知らせよ。故に丁重にあなたに好物を賜うのである、と。

⑪正始元年（二四〇年）、…倭王は、使いによって上表し、詔恩に答謝した。

⑫その四年（二四三年）、倭王はまた使いに大夫の伊声耆、掖邪狗等八人をつかわし、生口・倭錦・絳青縑（こうせいけん）絳青縑（こうせいけん）（赤と青のまじった絹織物）・縣衣・帛布（絹布）・丹・木附・短弓矢を上献した。

⑬その八年（二四七年）、…倭の女王卑弥呼は狗奴国の男王卑弥弓呼とはもとから不和であった。…郡は張政らをつかわした。

檄（ふれぶみ）をつくって、攻め合うことのないように告諭した。

⑭卑弥呼が死んだ。大きな塚をつくった。直径百余歩、殉死する者は奴婢百余人であった。

⑮さらに男王をたてたが、国中が不服だった。

お互いに誅殺しあい、当時千余人を殺しあった。

⑯また卑弥呼の宗女壹与（台与か）という年十三のものをたてて王とすると国中が平定した。

参考文献

『古事記祝詞』	日本古典文学大系	岩波書店
『日本書紀』	日本古典文学大系	岩波書店
『風土記』	日本古典文学大系	岩波書店
『先代舊事本紀訓注』	大野七三著	新人物往来社
『魏志倭人伝』	石原道博編訳	岩波文庫
『元初の最高神と大和朝廷の元始』	海部毅定	朝日精版
『堺女子短期大学紀要』「講座・邪馬台国と倭王卑弥呼」塚口義信		
『倭人・倭国伝全釈』	鳥越憲三郎	中央公論新社
『邪馬台国と「鉄の道」』	小路田泰直	洋泉社
「京都府遺跡調査報告書」第2 1冊 京都府埋蔵文化財調査研究センター		
『邪馬台国時代の丹波・丹後・但馬と大和』二上山博物館編		学生社
『古代丹後王国は、あった』	伴とし子	東京経済
『前ヤマトを創った大丹波王国』	伴とし子	新人物往来社
『卑弥呼の孫トヨはアマテラスだった』伴とし子		明窓出版
『ヤマト政権誕生と大丹波王国』	伴とし子	新人物往来社
『応神と仁徳に隠された海人族の真相』伴とし子		新人物往来社
『卑弥呼と邪馬台国』	伴とし子（共著）	テレビセとうち
『卑弥呼の謎に迫る』	伴とし子	明窓出版

その他多数

プロフィール 伴とし子

1 略歴

一九五五年京丹後市に生まれる。滋賀県近江八幡市在住。

大谷大学文学部文学科卒業。佛教大学史学科博物館学芸員課程修了。

伝説、歴史の研究に取り組み、大丹波王国論を展開する。古代丹波歴史研究所所長。日本ペンクラブ会員。京都地名研究会会員。全国邪馬台国連絡協議会会員。八日市郷土研究会会員。「森の中の家 安野光雅館」副館長。

2 主な著書

『古代丹後王国は、あった』、『前ヤマトを創った大丹波王国』、『ヤマト政権誕生と大丹波王国』、『卑弥呼の謎に迫る』ほか多数。